

第6章

水に関する自発的な活動等

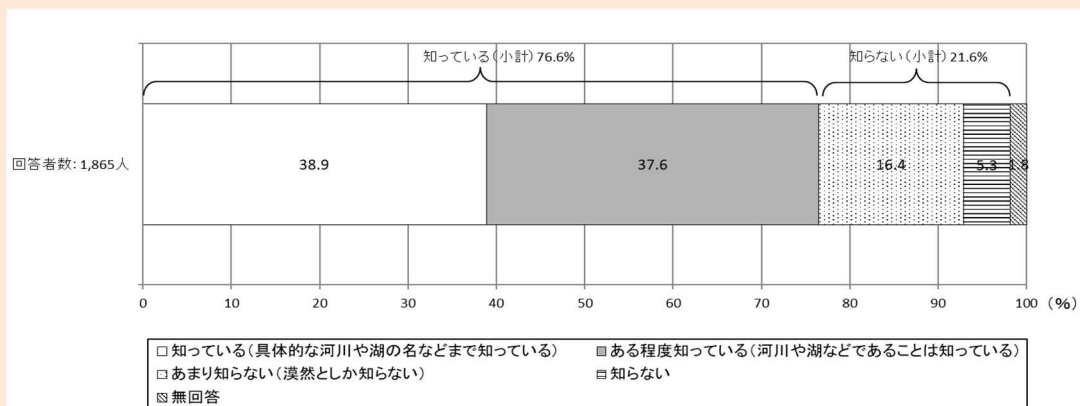
1 安全でおいしい水への要望【再掲】

「p.56 参照」

2 水資源に関する意識

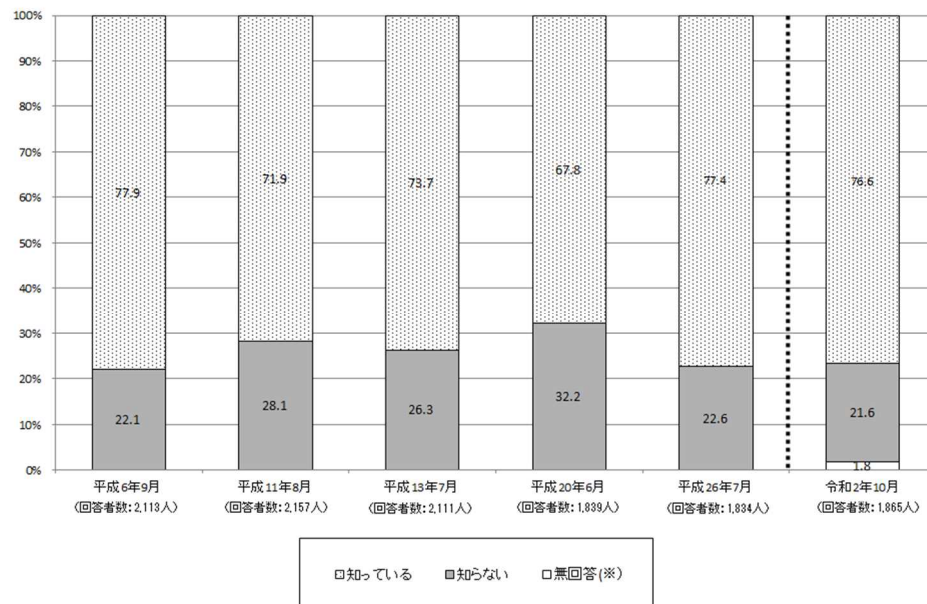
令和2年（2020年）に内閣府が実施した「水循環に関する世論調査」によると、水道の水源地の認知度を聞いた結果、約8割の人が「知っている」（「知っている（具体的な河川や湖の名などまで知っている）」38.9%と「ある程度知っている（河川や湖などであることは知っている）」37.6%との合計）と回答している（図6-2-1）。令和2年は「知っている」（「知っている（具体的な河川や湖の名などまで知っている）」と「ある程度知っている（河川や湖などであることは知っている）」との合計）が76.6%、「知らない」（「あまり知らない（漠然としか知らない）」と「知らない」との合計）が21.6%となっている（図6-2-2）。また、令和2年の同調査を年齢別に見ると、50～59歳以上の年齢階級では4割以上の人が「知っている」と回答しているのに対し、18歳～29歳では「知っている」と回答した人は約1割強である（図6-2-3）。

平成26年（2014年）に内閣府が実施した「水循環に関する世論調査」によると普段の生活で節水しているかどうかを聞いた結果、「節水している」または「どちらかといえば節水している」と答えた人は80.5%である（図6-2-4、6-2-5）。「節水している」または「どちらかといえば節水している」と答えた人を男女別にみると、男性が78.8%、女性が81.9%と女性の方が高く、年齢別にみると70歳以上で85.2%である一方、20～29歳では71.0%と若い層の方が低くなっている（図6-2-6）。



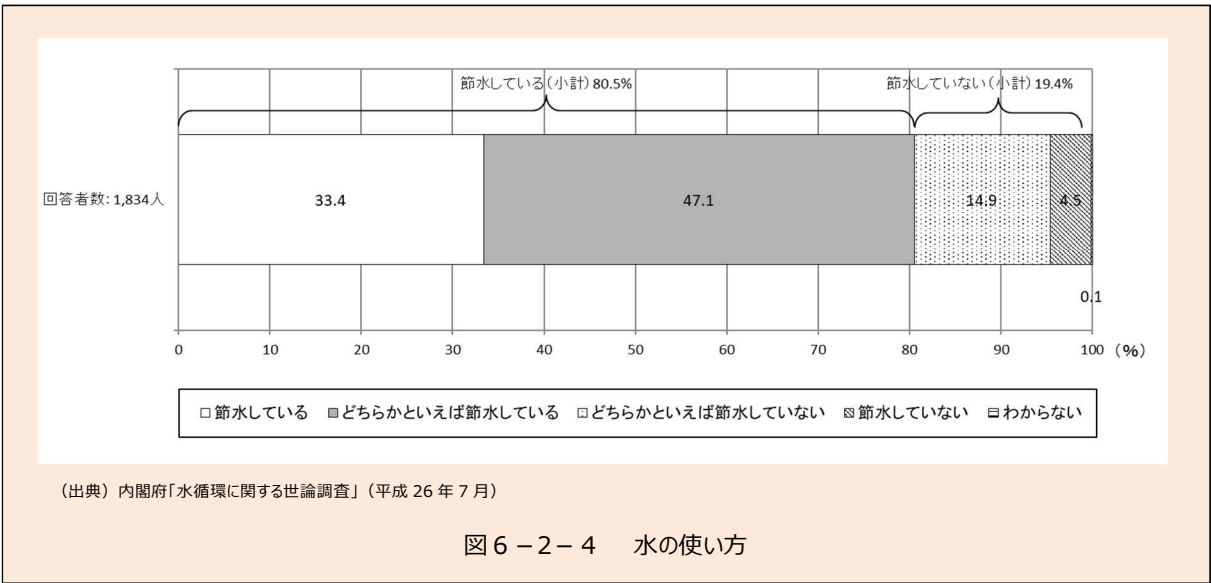
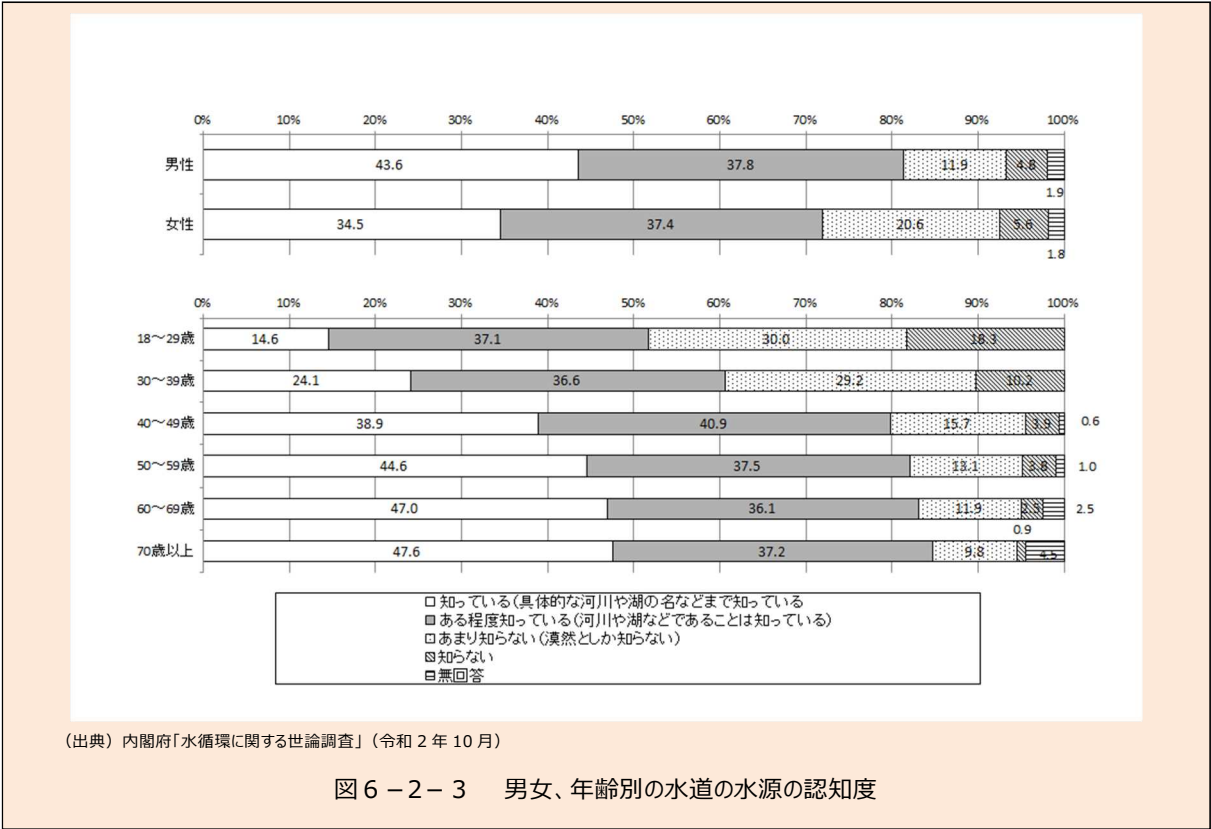
(出典) 内閣府「水循環に関する世論調査」(令和2年10月)

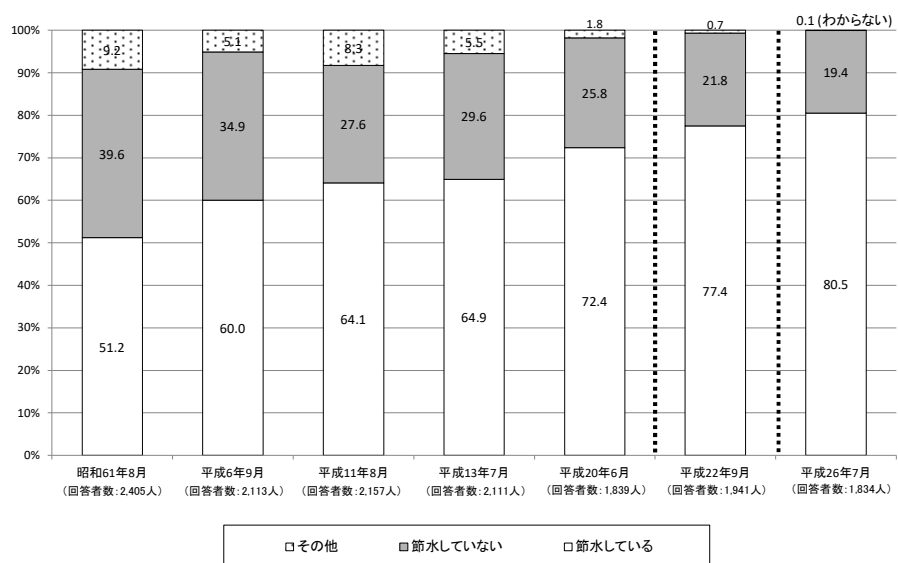
図6-2-1 水道の水源地の認知度



(出典) 内閣府「水循環に関する世論調査」(令和2年10月、平成26年7月)、内閣府「水に関する世論調査」(平成20年6月、平成13年7月)、総理府「水環境に関する世論調査」(平成11年8月)、総理府「人と水のかかわりに関する世論調査」(平成6年9月)、(※)「無回答」は令和2年のみの選択枝、平成26年7月調査までは、調査員による個別面談徴聴衆法で実施しているため、令和2年10月調査との単純比較は行わない。

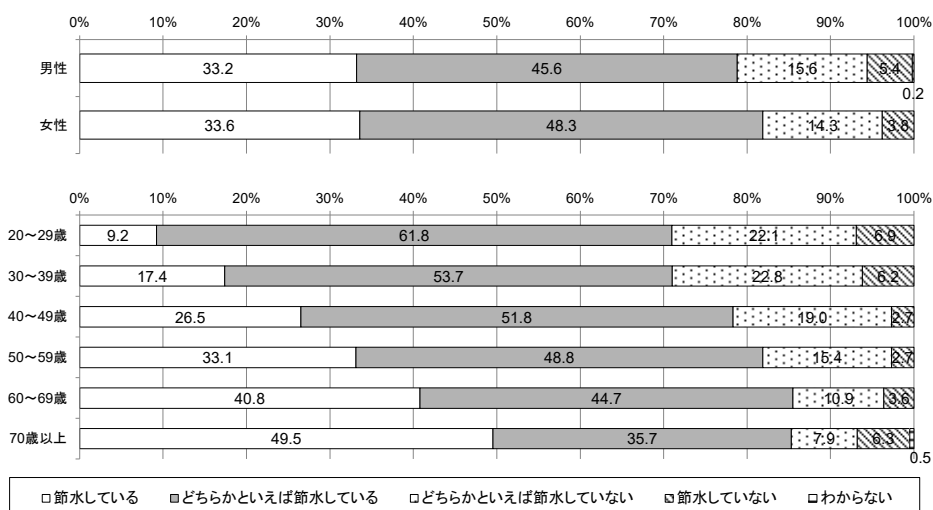
図6-2-2 水道の水源の認知度の経年変化





- (出典) 内閣府「水循環に関する世論調査」(平成26年7月)、内閣府「節水に関する特別世論調査」(平成22年9月)、内閣府「水に関する世論調査」(平成20年6月、平成13年7月)、総理府「水環境に関する世論調査」(平成11年8月)、総理府「人と水のかかわりに関する世論調査」(平成6年9月)、総理府「水資源に関する世論調査」(昭和61年8月)
- (注) 図中の「節水していない」は、平成26年7月、平成22年9月では「節水していない」、平成20年6月、平成13年7月、平成11年8月、平成6年9月、昭和61年8月では「豊富に使っている」という選択肢。
- (注2) 図中の「節水している」は、平成26年7月、平成22年9月の調査では、「節水している」は、「節水している」と「どちらかといえば節水している」の小計、「節水していない」は、「どちらかといえば節水していない」と「節水していない」の小計。
- 平成20年6月、平成13年7月、平成11年8月、平成6年9月、昭和61年8月では、「豊富に使っている」は、「節水のことは考えず、豊富に使っている」と「節水は必要と思いつつも、豊富に使っている」の小計。
- 「節水している」は、「ある程度節水をしながら使っている(注3)」と「まめに節水して使っている」の小計。
- (注3) 平成11年8月までは、「多少節水をしながら使っている」という選択肢。
- (注4) 凡例の「その他」は、全体から「節水している」、「節水していない」の合計を差し引いた残差。
- (注5) 平成22年以前と平成26年以降の調査は選択肢が異なるため比較はできない。

図6-2-5 節水意識の経年変化



(出典) 内閣府「水循環に関する世論調査」(平成26年7月)

図6-2-6 男女、年齢別の節水意識